会員の声

People to People

穴　原　良　司*

去年11月アメリカの電気電子学会（IEEE†）——23万名の会員をもつ世界最大の学会——をたづねた時，面白いはなしを聞いた．

技術の情報には3つのタイプがあるという．Technology to Peple，Technology to Industy，People to People だそうである．

Technology to People は論文誌とか研究報告，Technology to Industy は規格，規程類．3つめの People to People は，技術的解説とか展望などで，人から人へ話を伝えることに重点をおいているという．「エネルギー・資源」という雑誌の記事は Technology to People であってはならず，People to People でなくてはならないというのが，私の申し上げたいことである．

大体「エネルギー・資源」誌の読者は殆どすべて非専門家のはずである．専門外の人が自分に関心のある他エネルギー部門の新しい動向を理解して，自分の分野の参考にしたいというのが，この雑誌を手にする理由であろう．その人々に，Technology to People で肩をいからせた論文をおしつけることは余り意味がない．意味がない所か有害である．さすがに微分方程式や積分方程式がならんでいる記事は，わが「エネルギー・資源」誌にはみられないが，それでも難解な術語がぎっしりならんでいるのをみると，それだけで読む気力を失う．

そこでいくつかの提案がある．

第1は，専門外の査読者による十分な査読を是非実行してほしいことである．たとえば化学的記事であったら，電気の人とか機械専門の人に読んでもらって徹底的になおしてもらいたい．そして分りやすい書き方，内容にしてほしい．

第2は，そうはいっても小説や漫画を読むようにはやさしくできはしないから，せめて術語や略語に定義か解説を付記してほしいというお願いをしたい．非専門家にとって分らないことの第1は先づ術語や略語が理解できないことが多いからである．

第3は，執筆者になるべくユーザーの方をえらんでいただきたいことである．技術はそれをつくる側よりも使う側にとって語られる方が分りやすくなることが多い．メーカーのはなしで分りやすいというのは，例外もあるが，かなりユーザー的関心をもりこんで記述された場合が多いように思う．そして又ユーザーの関心のある技術の動向は，必ずメーカーがそれになびくものであるから，ユーザーの活発な発言は，組織全体の活性化にもつながる．

以上は People to People にそった分りやすい記事をのせてほしいという気持からの提言である．IEEE は，この線にそって専属の執筆者を何人かもっており，内外の関心テーマに対して分りやすい記事を23万人の会員に提供している．すぐれた技術者必ずしもすぐれた執筆者ではないという考え方からである．

23万人の会員をもつ組織と同じように専属の執筆者をかかえることは，わが研究会の場合にできることではないが，大勢の人がその気持になって努力すれば，それをしないよりもはるかによくなることは間違いないと思うし，分りやすい記事が多くなれば，それによって会員が又ふえてゆくことにもつながる．

「電車の吊りかわにつかまっても読めるような雑誌をつくれ」とは，もと京都大学教授の上之園親佐先生が電気学会雑誌に対していわれたお言葉であったが，わが「エネルギー・資源」誌は電気学会誌よりも，もっとこの吊りかわ論をかみしめなければいけない．

† Institute of Electrical and Electronics Engineers

* 富士電機製造(株) 理事・技師長
〒100 千代田区有楽町1—12—1